

評価項目	評価の観点	後期(今年度)の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
2	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	従来の指導体制に基づき、補習(朝、放課後、土曜)、特別編成授業、模試を実施し、更に復習の徹底や基本的な生活習慣の確立等の生徒への意識付けにも取り組んだ。(高3)	後期から共通テスト対策を取り入れたが、最後まで集中して取り組むことができた。学校生活に最後まで意欲的に取り組み、受験に向かう集団制作りを更に考えていく必要がある。(高3)	23	45	1	0	83.0
		6月のキャリア講演会、オープンキャンパスへの参加の呼びかけ、9月の屋代ミニ大学等を通じ、各生徒がキャリア目標を考える機会を増やした。修学旅行後の11月受験学習への切り換えを促す進路講演会を実施したことで、生徒の意識は受験に向いてきた。(高2)	共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、多様な生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(高2)					
		6月9月文理それぞれの講演会を実施した。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、キャリア形成に対する意識を深めた。新たに、10月企業で管理職を勤める傍ら大学でディスカッション型講義を実践する講師を招き模擬講義を実施した。大学での学びから実社会での仕事へと視野を広げる機会となった。8月ジョブシャドウ、夢ナビ動画、大学見学を実施した。自らのキャリアについての視野を広げる活動を行った。(高1)	それぞれの講演会、ジョブシャドウ等は、キャリア意識を形成するために意義深いものであったが、その他の活動も含めると生徒の負担はかなり大きいと感じた。今後、行事、活動の見直し精選していくことが課題である。(高1)					
		中3修学旅行での京都大学見学と本校OBとの交流、中2福祉体験などを通して、進路に対する意識を高めることができた。(中学)	京都大学での本校OBとの交流は生徒にとってモチベーションを高める良い機会となったため、今後も継続していきたい。(中学)					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	様々な節目で3学年集会を開催してキャリア教育係より説明し意識の向上に努めた。また、3学年通信を年間を通じて20号余り発行し、必要な情報を生徒、保護者と共有できるようにした。(高3)	模試、共通テスト、国公立大・私立大個別試験、推薦入試に関する情報を細かく発信することができた。(高3)	22	44	3	0	81.9
		保護者向けには科目選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、入試科目と3年次の選択科目の研究を促した。保護者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高2)	進路目標が見えてきた生徒も増えているが、まだ方向性が定まらない生徒もいる。多様な生徒の現状を認識し、機会を捉えた継続的なキャリア指導を行いたい。(高2)					
		保護者向けには文理選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、文理選択について研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高1)	春、秋の保護者説明会で学年としての考え方等を直接説明し、毎週発行する学年通信により学校での学習や行事の取り組みを発信した。保護者アンケートでもその点を評価する意見がいくつか寄せられているため概ね良好と考えている。(高1)					
		三者懇談会において個別に学習状況を共有し、進路を見据えて今後の学習の方向について確認した。(中学)	今年度は中学保護者向けに進路研修会を行い、大学入試制度の概要や高校での学習について情報を共有した。来年度は「先輩の話を聞く会」として、全校生徒・保護者を対象に本校の卒業生の実体験を聞く場を設けたい。(中学)					
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目を減らさず、6教科・8科目型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3)	引き続き、6教科・8科目型の強みを活かす指導を継続したい。(高3)	22	44	3	0	81.9
		生徒は学年集会や科目選択説明会を通して志望校や学部を研究した。教員側は授業を中心とした学校生活の取り組みや考査毎の成績情報を学年で共有し指導に活用した。実際の共通テストにチャレンジすることで、今後つけるべき学力を確認した。(高2)	学年団で1年間の学力推移と各成績層の状況を確認した。各教科ごと上・中位層及び下位層に応じた指導を探究した。各生徒の学力及び適性に応じ、綿密なキャリア指導を模索することにより、志望大学への総合的な学力を高めていきたい。(高2)					
		学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通して、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)	学年集会や説明会のほかにも、タイミングを計りながら学年通信等もさらに活用して、進路に関する情報を生徒や家庭と共有していきたい。(高1)					
		学力推移調査を実施し、結果をもとに懇談等で今後の方針を確認した。(中学)	学習の定着状況に加え、家庭学習の状況を把握しつつ、生徒の実態に合わせた指導を行っていきたい。(中学)					

					職員評価				
		評価の観点	後期(今年度)の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	A	B	C	D	指標
2	キャリア教育	学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	3年間、模試分析を通して各科目の学力実態を把握し、授業をベースにしなが、目的別の補習や個人添削等でより個々に適した対処をしてきた。(高3)	生徒の心に寄り添う点にも配慮しつつ、学力の伸長を図っていききたい。特に、10月には模試が集中するので、配慮が必要である。(高3)	23	43	3	0	82.2
			調査や外部模試の結果、及び、面談週間における個人面接により、集団と個々への指導を繰り返した。(高1,2)	各成績層に合わせた学習内容と環境を充実させていききたい。(高1,2)					
			学力推移調査の結果をもとに、各教科において実態に合わせた指導を行った。(中学)	過年度生の推移と比較するなどして、傾向や課題を把握したうえで学習に向かう手立てを講じていききたい。(中学)					
3	授業科指導善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	全2回の職員研修でCanvaを活用の工夫、Google Sitesを用いた情報発信の取り組み、Notebook LMによる効率的な資料作成やまとめ作業について実践紹介が行われた。いずれも授業や校務に直結する内容であり、ICT活用の具体的なイメージを共有する機会となった。また、研修会にあわせて校内授業参観を実施し、各教科におけるICT活用や授業展開の工夫について相互に参観・共有することで、職員の授業改善や指導力向上につなげることができた。(カリキュラムデザイン・SSH)	校内研修会は概ね好評であり、比較的取り組みやすいアプリケーションを題材としたことで、教員がICT活用を身近なものとして捉えることができた。研修内容を通して、授業や校務にすぐに活用できる具体的な提案をすることができた。また、校内授業参観ではテーマを設定し、より具体的に授業改善の参考になるような提案ができた。ICT活用の実践には教員間で差があり、個々の状況に応じた支援の必要性が明らかとなった。(カリキュラムデザイン・SSH)	25	40	4	0	82.6
4	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	週1回の係会を通して、支援の必要な生徒の実態把握と対応を考え、実施することができた。またテスト時の別室対応等、滞りなく実施することができた。(生徒支援係)	毎週係会で各学年の生徒情報共有ができた。引き続き各家庭、SC,SSW等連携をしていききたい。今後さらに増加予想の支援生徒にどう対応していくかが課題となる。(生徒支援係)	29	37	3	0	84.4
		通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	交通立ち番を年に3回実施した。交通事故防止の注意喚起をしたり、道路交通法の改正の通知をクラスルームに流したりなどの対応をすることができた。(生徒支援係)	年間を通して交通立ち番を計画通り実施し、事故防止の注意喚起はできた。次年度からの道路交通法改正についても周知したが、次年度以降も詳細を伝えていききたい。(生徒支援係)	23	45	1	0	83.0
	生徒指導	SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	SNS利用の仕方について、終業式等で注意喚起した。また気になるSNS投稿に関しては学年や係で個別注意や指導等対応をとることができた。	SNS利用に関しては注意喚起を繰り返した。不適切写真・動画の送受信が県内中高にて増加傾向にあるということなので、次年度以降引き続き伝えていききたい。(生徒支援係)	23	42	4	0	81.9
		すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	R7年10月30日(木)LHRにてオンライン全校集会を実施。佐藤友則先生(信州大学グローバル化推進センター教授)による「多文化共生による日本の発展」を通して、多文化共生への理解と情報の取捨選択の重要性を学んだ。 R8年1月29日(木)高校1・2年生を対象に各HRでLHR研修を実施し、「日本(長野県)における在住外国人」について考えた。(人権係)	本年度は「多文化共生社会」について学習した。日本(長野県)では外国人労働者の受け入れが進み、現在では重要な労働力となっている。今後も外国人材の活用が不可欠となる中で、「外国人労働者なしで日本経済は成り立つのか」「外国人との共生社会は実現可能か」という課題について考えを深めた。その過程で、共生社会の実現には、人権を尊重し、互いに誇りを持って生きていける社会的雰囲気醸成することが重要であると感じた。(人権係)	26	39	4	0	83.0
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	学校要覧作成(4月)、第1回授業公開(5月)、中学校説明会(6月)、中学校への学校訪問(6月)、学校案内パンフレット作成(6月)、中学生体験入学(7月)、第2回授業公開(8月)、高校説明会(10月)、HPハトニワの更新(週1程度)、屋高の窓の発行(月1程度) ハトニワでは担当部署と連携しながらリアルタイムで発信することができた。生徒会と連携し本校の特色が伝わりやすいHPの更新を行った。(4月からリニューアル予定)(広報係)	ハトニワや屋高の窓などを通じた情報発信を継続していききたい。中学校訪問では、訪問校には好意的に受け止めてもらっている。来年度以降も継続していくことが望ましい。HP更新に伴い、生徒会(班活動、鳩祭など)からの情報発信も可能となるため、担当部署と連携した情報発信に努めていく。(広報係)	21	42	6	0	80.4
			学年通信を年間12回程度発行し、学年クラスルームで、行事ごとに写真を添付して生徒の活躍の様子を配信した。(高2)	学級PTAなどで時折保護者より感想を聞くが、それ以外には感想を尋ねる機会がないので保護者の反応がつかみにくい。(高2)					

			職員評価							
評価の観点		後期(今年度)の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題			A	B	C	D	指標
6	生徒会	<p>質実剛健の気風を大切に、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導・支援を行うことができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動を行うことができたか。</p>	<p>生徒会選挙、第70期の役員選出、一斉委員会を経て、各委員会ごとに自主的な活動ができるよう支援した。班室の施設環境の整備を行った。また今年度は、昨年度は感染症の流行によって中止になっていた稲荷山養護学校との学校交流も再開することができた。(生徒会係)</p>	<p>年度当初の生徒総会で、天文・地学・理化・生物など理科系の班を「科学班」としてまとめる案が承認され、従来の研究活動に加えて数学や情報など様々な分野の研究活動ができるようになった。今後は実際の運営状況を確認、問題点等を洗い出していく必要がある。(生徒会係)</p>	30	37	2	0	85.1	
		<p>第70回鳩祭にむけ、鳩実正副委員長を中心に準備を開始した。41の係に約100名の正副係長を配置し、3回の正副係長会や鳩実正副委員長による係長面談を通じて、来年度の鳩祭の構想と具体化を議論し、鳩マニュアルvol.0を作成した。(生徒会係)</p>	<p>今年度は開祭式や中夜祭の会場を1か所に集約し、一体感のある盛り上がりを目指した。熱中症対策を講じ、重大な事態はなかったが、体調を崩す生徒も見られた。来年度も熱中症・感染症対策を工夫するとともに、校内祭各企画の時間厳守の徹底や、一般公開来場者に分かりやすい校内掲示やパンフレット作製にも力を入れた。(生徒会係)</p>							
6	校内化	<p>清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。</p>	<p>ゴミステーションでのごみの収集、定期的に清掃用具の点検や補充並びに古紙のリサイクルを実施する。(厚生係)</p>	<p>可燃ごみ、柔らかできれいなプラスチック、硬いプラスチック等のごみの分別を行った。各分担区の清掃用具の調査を行った。予算だての中で清掃用具の購入を計画的に行いたい。(厚生係)</p>	20	39	10	0	78.6	
		<p>11月中旬に、落ち葉等の外清掃を重点的に行う。(厚生係)</p>	<p>各クラス2回ずつの「落ち葉掃き」の担当をしてもらったが、清掃時間だけでは、大量の落ち葉に対応できなかった。(厚生係)</p>							
		<p>生徒会と連携し、ワックスがけ(後期は全棟廊下・階段)、全棟モップ交換(全棟)を行う。(厚生係)</p>	<p>ワックスがけの手順については用具の手配とともにマニュアル化していきたい。(厚生係)</p>							

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点になるように換算しました。【換算式】 $25 \times (4 \times A \text{の数} + 3 \times B \text{の数} + 2 \times C \text{の数} + 1 \times D \text{の数}) \div \text{総数}$